

最後に、注目すべき御言葉は「あなたがたは」です。3人称ではありません。「わたし」なのです。生命の救いの働きは「わたし」がしなければなりません。「義」も「わたし」が行うのです。隣人の人生を変えたり、国の指導者や邪悪な者を変えるものではありません。人間は悪者になると、問題の核は自分にあるにもかかわらず、自分の意志と異なる者は、すべて悪者だと非難します。

変化の優先順位は、「わたし」なのです。わたしが「義」を行なわず、わたしが変わらないで、「義」を言ったところで、誰が変わるでしょうか。わたしが変われば、教会が、近所の人が、世界が変わります。

イエスさまは、十字架にかかった時、嘲笑いながら非難する連中に、「あなたがたは悔い改めなさい」と言われませんでしたし、呪いもしませんでした。ただ、主は「彼らは知らないで赦してください」と祈りました。その結果、強盗が変わり、弟子たちとサウロが変わりました。これが「あなたがたは」の意味です。

わたしと共に、同労者であると同時に神さまの民となった聖徒の皆さん！希望に満ちた新年が明けました。主が言われた「あなたがたは、何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」という御言葉は、まず、教会が努めるべき核心たる働きであり、弟子になった者が力を尽くして行わなければなりません。ここに、わたしたち総会と、この民族、祖国に希望があります。この「義」を忘れずに、力を尽くして多くの実を結ぶ2015年になるように努力しましょう。

新年、主の恵みによって、家庭には笑いが、霊肉には健康、企業には繁栄、教会には平安と救いの祝福が満ち溢れますように、切に願っております。

主にあって、新年、明けましておめでとうございます。

<お詫びと訂正>

2014年12月号の6面に掲載された岡山教会の牧師委任式のタイトルが<西南地方会>になっておりますが、正しくは<西部地方会>であります。訂正し、お詫び致します。

<福音新聞発行部数変更と各教会への配布変更案内>

「福音新聞」は、2014年まで、毎回2,000部を発行して、日本の各教団と教会及び全国総会の各教会と伝道所に、文書伝道と機関誌としての役割を担いながら配布してまいりました。しかし、総会の諸事情により、2015年度からは、1,000部を発行することになりました。したがって、2015年度からは各教会に配布される新聞の部数を変更されますので、ご了承して下さい。引き続き、支援と祈りとご指導をお願い致します。

<日・韓・在日3教会>

国際シンポジウム開催



韓国・日本・在日教会3教会の国際シンポジウムが2014年10月7日～8日、広島で開催された。外キ協と韓国NCCが主催して今回第17回となるシンポジウムには、韓国教会から16人をはじめ、55名の参加者が集まった。

開会礼拝と基調報告「日韓条約から49年—日本政府／社会／教会の現在」から始まった1日目の主題講演では、『日本型排外主義』を執筆した樋口直人・徳島大学准教授を招いて、いま日本国内で行なわれているヘイト・スピーチについて社会学的な側面から語った。

続いて、それぞれがいま立っている現場での働きや課題について発題がなされた。大矢直人牧師(日本バプテスト同盟)「日本における移住者と多文化教会」、許伯基牧師(KCCJ)「ヘイト・スピーチと在日韓国教会」、禹三悦牧師(韓国NCC)「人種差別撤廃のための韓日キリスト者の課題」、吉高叶牧師(日本バプテスト連盟)「もし創造的に生きなければ、罪責的に生きよ」、金成元長老(KCCJ)「日本社会・韓国社会への提言」、飛田雄一・神戸学生青年センター館長「日本の戦後補償問題の現在」、李英牧師(韓国NCC)「移住民と教会の宣教課題」、金在源「青年の旅(全5回)で学んだこと」である。

2日目には、大韓イエス教長老会移住民宣教協議会共同表のキム・ギョボク牧師に、「東アジアの和解と平和のために」というテーマで主題講演をした。東北アジアの歴史と、現在の情勢、日本やアメリカの危機的状況を踏まえて、東北アジアでの和解と平和実現のために成し遂げられなければならないことについて語った。

キリスト者から和解と平和が広がっていくことを願い、行動していかなければならないと思われた2日間であった。

(報告：金在源)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様会議及び宿泊研修(50名)も可能。
 ・スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
 ・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
 ・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャング】
 在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。
 東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611
 関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

第 17 回 韓国・日本・在日教会国際シンポジウム共同声明文

「神は、キリストを通してわたしたちをご自分と和解させ、
また和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。」(Ⅱコリント 5:18)

私たち韓国・日本・在日のキリスト者は、2014 年 10 月 7～8 日、戦争の悲劇と平和の祈願を体現する、日本広島県広島市の国際青年会館アステールプラザならびに日本バプテスト連盟広島キリスト教会で、「未来への責任：東アジアの和解と平和—日本・在日・韓国教会の共同課題をヒロシマから考える」という主題のもと、第 17 回国際シンポジウムを開催した。

朝鮮半島の南と北が核問題を中心に激しく対立し、世界第二の経済大国として浮上しようとする中国を押さえ込もうとするアメリカの覇権が揺らぐ変革期を、私たちは迎えている。国家間の領土紛争が増加しており、日韓両国の保守政権によって歴史歪曲が進行している。さらに、日本の平和憲法再解釈と集団的自衛権容認による再軍備化ならびにアメリカ軍の再配置と、強化された日米韓共同軍事演習が、朝鮮半島と東アジアの和解と平和を脅かし、残虐な戦争へといたる懸念が増しつつある。

そして近年、韓国と日本において、外国人住民に対する排外主義的傾向が高まっている。偏狭な国粹主義に基づく差別的・排外主義的な言説が、インターネットやマスメディアを通じて無批判に拡散され、人権保護への取り組みにたいする脅迫や、「ヘイト・スピーチ」と呼ばれる差別煽動行為が繰り返されている。これらの差別行為は、両国がすでに批准している国連の人種差別撤廃条約において明確に犯罪行為として規定されているにもかかわらず、両国は対応する国内での差別禁止法を整備するにいたっていない。その結果、両国の外国人住民に対する差別的言動は増加の一途を辿っている。韓国社会においては、排他的な自民族中心主義が移住労働者への搾取制度の改善と人種差別の克服を妨げている。一方、日本社会においては、過去の侵略と植民地支配という暴力の歴史に対する反省の深化と共有がいま急速に失われていることが、近隣諸外国に対する敵意を煽り、そのことが外国人住民、とりわけ在日韓国朝鮮人に対する差別的言動を蔓延させる大きな要因となっている。

このような東アジアと日韓両国の状況を、私たち韓国・日本・在日教会に集うキリスト者は深く憂慮する。私たちキリスト者は、神に作られたすべての命の尊厳が守られる社会の実現のために、共に祈りと力を合わせなければならない。神から和解と希望の福音を告げる使命を託されている者として、憎悪と差別とが満ちるこの社会の中で、私たちは沈黙することなく共に声を上げなければならない。過去の暴力の歴史に向き合い、その過ちを真に告白し、和解と信頼が実現する未来へと私たちは共に歩まなければならない。

- それゆえに、私たち韓国・日本・在日教会に集うキリスト者は、以下の事柄について、共に取り組んでゆくことを確認する。
1. 私たちは、東アジアの和解と平和のために、広がりを見せる歴史歪曲と領土紛争と軍備増強に反対し、日韓両政府が正義と平和と命のために仕えるよう求め、「見張り」の役割を果たす。
 2. 私たちは、日韓両政府が「人種差別禁止法」を制定し、外国人住民と社会的少数者の権利を保障することを求める。
 3. 私たちは、植民地主義、人種主義を乗り越え、共に生かし合う教会と社会を形成するために、互いの課題と成果を共有することのできるネットワーク作りを推進する。
 4. 私たちは、韓国・日本・在日教会が出会い、歴史教育、平和教育、人権教育をより豊かにするため学び合うプログラムを推進する。
 5. 私たちは、外国人住民の権利保障が福音宣教であることを認識し、その実現のためにアジアと世界の教会との協力を推進する。
 6. 私たちは、これらの使命を担うために韓国・日本・在日キリスト者の連帯と協力を継続することを確認し、第 18 回国際シンポジウムを 2016 年、韓国で開催する。

2014 年 10 月 8 日

★ 福音新聞は、2015 年 1 月号から 1,000 部を発行し、全国に配布しますので、あらかじめお知らせ致します。



一歩一歩、キリスト教の心・愛の輪を築く
レホボト・ジャパン
Christian Calling Search Site
http://www.rehoboth.jp
Tel 099-3945-3373
e-mail info@rehoboth.jp
住所 兵庫県芦屋市朝日 10-35-10
レホボトジャパン 代表

豊かな味、豊かな心。



妻家房
SAIKABO
代表取締役 吳永錫 (東京希望キリスト教会 長老)
四谷本店: 東京都新宿区四谷 3-10-25 Tel. 03-3354-0100

<オラフ WCC 総幹事が来日> KCCJ も宣教協議会を



2014年12月3日から10日にかけて、世界教会協議会(WCC)の総幹事であるオラフ・フィクセ・トヴェイト牧師が、アンナ夫人とWCCスタッフの金東聖牧師を伴って日本を訪れた。これは8月に予定されていたが本人の体調のために取りやめになった訪日を、3日～6日に在日本韓国YMCAで開催される「宗教者9条世界会議」への参加も兼ねて再び設定したものである。

これによって、8月の張裳 WCC アジア議長の訪日に続き、1年に2度目のWCC代表者の訪日となり、これは極めて異例なことである。その陰には、右傾化と再軍備化、9条改憲、靖国問題とアジア諸国との葛藤、原発推進路線の保持など、世界的に見て非常に危うい路線を突っ走る安倍政権に対し、世界のキリスト教者が深刻な憂慮を抱いている、というメッセージが込められている。

WCCの現職総幹事が日本を訪れるのは、実に15年ぶりのことである。

トヴェイト総幹事とその一行は滞在期間中、京都と仙台を訪れた。京都では礼拝説教や講演、また関西のエキュメニカル・ネットワークが催したレセプションに出席、仙台では被災地の様子を視察、福島原発被災者の話を聞く機会を持った。京都においては京都教会の兪正根長老と林明基牧師がもてなし役を買って出て、KCCJや京都教会の歴史をプレゼンテーションしつつ、京都教会女性会の手作りの昼食をふるまった。

また東京では帰国前日の12月9日に、金性済副総会長、金柄鎬総幹事が一行と青山外苑にて昼食を共にし、ヘイトスピーチを初めとする日本社会のマイノリティ状況を説明し、11月に開催予定の第3回「マイノリティ問題と宣教戦略」国際会議への協力を要請する機会を得た。

(報告：許伯基)

<アクラ信仰告白10周年> 台湾で、神学協議会開催

2014年9月8日から12日にかけて、台湾の台北にてアクラ信仰告白10周年を記念する神学協議会が開かれた。これはWCRC(世界改革派教会共同体)のNEAAC(東北アジア部会)の枠組で行われたイベントである。

アクラ信仰告白とはガーナ共和国のアクラで2004年に開かれたWARC(当時)で採択された、世界の暴力と不正義、そして環境問題に関する教会の取り組みに関する使命を謳った信仰告白文である。

このアクラ信仰告白の10周年を記念して、世界の各地域でWCRCによる地域神学協議会が開かれ、各地域の声明文と代議員が決定される。



そしてその声明文を持って、ドイツのハノーバーで開かれる全体神学協議会(11月)に、各地域の代議員が集まることになった。

台湾長老教会(PCT)がホスト役を担った東北アジア部会での神学協議会は、日本からは在日大韓基督教会と日本キリスト教会、香港から中華基督教会香港区会(HKCCCC)韓国からはイエス教長老会統合(PCK)と韓国基督長老会(PROK)、及びWCRCのスタッフがハノーバーから、またWCCのアドバイザーがフィリピンから参加した。

各国の社会と教会の状況をシェアした後、参加者たちの発題と講演を聞いた。

5日間の協議会は声明文の作成作業で大詰めを迎え、内容をめぐって時に激しい議論が交わされました。CCJとKCCJの強い意向によって、声明文には日本の右傾化と軍事化、歴史修正主義的な態度と韓・中・日間の関係悪化、ヘイトスピーチの問題、また反核についての内容が盛り込まれた。

ハノーバーの神学協議会の本会には、PCTのJoshua Lian(連振翔)伝道師が東北アジア部会より派遣されることとなった。PCTの素晴らしいもてなしと強力な組織力、そして台湾料理の美味しさと台北の趣たっぷりの町並みが、とても印象に残った旅となった。

(報告：許伯基)